

公開シンポジウム「歴史学の担い手をいかに育て支えるか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議史学委員会・国際歴史学会議等分科会
2. 共 催：日本歴史学協会、歴史学研究会、歴史教育者協議会、歴史科学協議会
3. 後 援：総合女性史学会、内陸アジア史学会、信濃史学会
4. 日 時：平成29年3月4日（土）13時～18時
5. 場 所：駒澤大学駒沢キャンパス1号館204教場
6. 分科会の開催：なし
7. 開催趣旨：1990年代以降の大学院拡充政策の結果として、人文社会科学全般で大学院生が増加したにもかかわらず、現在、歴史学の学会会員数は減少している。歴史学を専攻する「若手研究者」はどのような問題に直面しているのか。日本歴史学協会の若手問題検討委員会の中間報告書を題材に、次世代の歴史研究者の育成に携わっている大学教員をはじめ、現にこの問題の渦中にある非常勤講師や大学院生などとともに議論を行う。
8. 次 第：
 - 13:00 開会の挨拶
小沢弘明（日本学術会議連携会員、千葉大学文学部歴史学コース教授）
 - 13:15 趣旨説明
 瀬畑 源（長野県短期大学多文化コミュニケーション学科助教）
 - 13:30 日本歴史学協会ウェブ・アンケート中間報告
 浅田進史（駒澤大学経済学部准教授）
 - 14:00 学部・大学院教育の現在——国立大学の事例から
 山田 賢（千葉大学文学部歴史学コース教授）
 - 14:30 学部・大学院教育の現在——私立大学の事例から
 橋本伸也（関西学院大学文学部教授）
 - 15:00 コメント 日本学術会議から
高埜利彦（日本学術会議第一部会員、学習院大学文学部教授）
 - 15:20 コメント 西洋史若手研究者問題検討WGから
 松本 涼（福井県立大学学術教養センター専任講師）
 - 15:40 （休憩）
 - 16:00 総合討論
 - 18:00 閉会の挨拶
 木村茂光（日本学術会議連携会員、日本歴史学協会会長）

9. 関係部の承認の有無：第一部承認

（下線の講演者は主催分科会等委員）

公開シンポジウム「東日本大震災に係る食料問題フォーラム 2017
—環境汚染と内部被曝問題—」の開催について

1. 共 催：日本学術会議農学委員会・食料科学委員会・健康・生活科学委員会合同東日本大震災に係る食料問題分科会、農学委員会農業経済学分科会、農学委員会・食料科学委員会合同農芸化学分科会、農業情報システム学分科会、食料科学委員会水産学分科会、畜産学分科会、食の安全分科会、臨床医学委員会放射線防護・リスクマネジメント分科会
2. 後 援：日本農学アカデミー、日本水産学会、日本畜産学会、日本農業経済学会、日本農芸化学会、農業食料工学会、日本リスク研究学会、福島県立医科大学、東京大学大学院農学生命科学研究科アグリコクーン、北里大学海洋生命科学部、京都大学リスク研究ネットワーク、長崎大学福島未来創造支援研究センター、長崎大学大学院水産・環境科学総合研究科
3. 日 時：平成29年5月13日（土）13：00～17：00
4. 場 所：長崎大学ポンペ会館
5. 分科会の開催：開催予定
6. 開催趣旨：東日本大震災によって引き起こされた東京電力（株）福島第一原子力発電所の事故により、福島県を中心に大量の放射性物質が環境中へ放出され、食料資源の生産現場にも大きな被害をもたらした。この事故からすでに6年が経過し、環境放射能は一部陸域を除き極めて低いレベルにまでなった。福島県産の農林水産物についても安全モニタリングの普及や自主操業などにより、市場には厳しい安全規制をクリアした食品しか流通していないが、消費者は福島県産の食品に未だ不安を抱いている。そこで本フォーラムでは、いかにして福島県産の食品の安全性を消費者に理解してもらうことができるのか、放射線被ばくと健康、食品の安全性とリスクコミュニケーションに関するテーマを中心に議論し、福島県の農林水産業の復興の加速に資することを目指す。
7. 次 第：
 - 13：00 開会の挨拶
渡部 終五（日本学術会議第二部会員、北里大学海洋生命科学部特任教授）
 - 13：10 放射線被ばくと健康リスク：原爆被災からの復興と原発事故からの復興の相違について（仮）
山下 俊一（日本学術会議第二部会員、長崎大学理事・副学長）
 - 13：35 チェルノブイリ原発事故と福島第一原発事故の相違について（仮）
平良 文亨（長崎大学原爆後障害医療研究所客員准教授）
 - 14：00 川内村と富岡町での環境放射能汚染測定と内部被ばく評価
高村 昇（長崎大学原爆後障害医療研究所教授）

14：25－15：35 （ 休憩 ）

14：35 避難指示が解除された地域における環境回復と地域再建の課題

万福 裕造（国立研究開発法人 農業・食品産業技術総合研究機構 本部企画
調整部 震災復興研究統括監付）

15：00 食の流通の安全安心の確保（仮）

菅野 孝志（ふくしま未来農業協同組合 代表理事組合長）

15：25 放射性物質の健康リスク：市民の知覚とリスクコミュニケーションの可能性
（仮）

新山 陽子（日本学術会議連携会員、京都大学大学院農学研究科教授）

15：50 総合討論

（司会）中嶋 康博（日本学術会議連携会員、東京大学大学院農学生命科学研究科教
授）

山下 俊一（日本学術会議第二部会員、長崎大学理事・副学長）

16：50 閉会の挨拶

澁澤 栄（日本学術会議第二部会員、東京農工大学大学院農学研究院教授）

8．関係部の承認の有無：第二部承認

（下線の講演者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「地質地盤情報の共有化を目指して
ー安全安心で豊かな社会の構築に向けてー」の開催について

1. 主 催：日本学術会議土木工学・建築学委員会インフラ健全化システム分科会
2. 共 催：なし
3. 後 援：国土交通省、経済産業省、土木学会、日本建築学会、地盤工学会、日本不動産学会、日本地質学会、全国地質調査業協会連合会(予定)
4. 日 時：平成 29 年 4 月 27 日（木）13：30～17:40
5. 場 所：日本学術会議講堂
6. 分科会の開催：開催予定

7. 開催趣旨：わが国の国土の地質地盤は、諸外国と比べて極めて複雑で、変化に富んでいる。したがって、社会インフラ建設において利用される地質地盤情報は、国民にとって必要不可欠な情報であり、国民の共有財産でもある。しかしながら、現状では、社会インフラを造るあるいは設計するための地質地盤情報が情報インフラとして必ずしも整備されておらず、地質地盤情報の記録・公開・共有化が強く望まれている。

このような現状に鑑み、本シンポジウムでは、安全安心で豊かな社会の構築に向けて、国土の基本情報としての地質地盤情報のあるべき姿と地下空間の利活用における安全性の向上について総合的な討論を行う。

8. 次 第：

司会：桑野 玲子(日本学術会議連携会員、東京大学生産技術研究所都市基盤安全工学国際研究センター教授)

13：30 開会挨拶：

依田 照彦（日本学術会議連携会員、早稲田大学理工学術院創造理工学部教授）

13：35 基調講演：地質地盤情報の共有化について(仮)

栗本 史雄（日本学術会議特任連携会員、産業技術総合研究所名誉リサーチャー、地質地盤情報の活用と法整備を考える会代表）

14：35 基調講演：地下利用に関する国の審議状況(仮)

大西 有三（関西大学環境都市工学部客員教授、京都大学名誉教授）

15：35－15：45 （ 休憩 ）

15：45 パネルディスカッション：

モデレーター：嘉門雅史(日本学術会議連携会員、京都大学名誉教授)

パネリスト：飯尾 潤（政策研究大学院大学教授）

宇賀 克也（東京大学法学政治学研究科教授）

北田 奈緒子（一般財団法人地域地盤環境研究所研究開発部門長）

小林 潔司（日本学術会議連携会員、京都大学大学院工学研究科教授）

17：35 閉会挨拶：冢田 仁（日本学術会議連携会員、政策研究大学院大学教授）

17：40 閉会

9. 関係部の承認の有無：第三部承認

（下線の登壇者は、主催分科会委員）

公開シンポジウム「看護学分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準」
の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会
2. 共 催：日本看護系学会協議会、日本看護系大学協議会
3. 日 時：平成 29 年 3 月 26 日(日)10：00～12：00
4. 場 所：聖路加国際大学 アリス・C・セントジョンメモリアルホール
5. 分科会の開催：なし

6. 開催趣旨：

2008 年 5 月日本学術会議は文部科学省高等教育局長から「大学教育の分野別質保証のあり方に関する審議について」という審議依頼を受け、2010 年 7 月に「大学教育における分野別質保証のあり方（回答）」を取りまとめた。その中で、分野別教育の質を保証するために教育課程編成上の参照基準の策定に取り組むことは日本学術会議の役割であるとして、2012 年以降、各学問領域から次々に「教育課程編成上の参照基準」が審議され報告され、すでに 20 を超える分野から参照基準が報告されている。日本学術会議看護学分科会では 2015 年第 23 期から日本看護系大学協議会でこれまで行われてきた教育の評価や質保証に関する検討内容を踏まえて、参照基準作成に取り組み、案を作成した。看護学の学問としての性質と看護学の学士教育がその主な内容であることから、日本看護系学会協議会と日本看護系大学協議会をとおして広く意見を聞くことが妥当であると考え、ご協力を得て下記の要領でシンポジウムを開催したい。

7. 次 第：

- 座長 太田 喜久子（日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学看護医療学部教授）
- 10:00～10:10 看護学領域の分野別質保証のための教育課程編成上の参照基準作成
の経緯について
- 片田 範子（日本学術会議第二部会員、兵庫県立大学看護学部教授）
- 10:10～10:40 参照基準の作成手順と看護学教育の参照基準案について
- 内布 敦子（日本学術会議連携会員、兵庫県立大学看護学部教授）
- 10:40～12:00 討論
- 12:00 閉会
- 太田 喜久子（日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学看護医療学部教授）

8. 関係部の承認の有無：第二部承認

公開討論会「安全保障と学術の問題に看護はどう取り組むか」の開催について

1. 主 催：日本学術会議健康・生活科学委員会看護学分科会、日本看護系学会協議会

2. 共 催：日本看護系大学協議会

3. 日 時：平成 29 年 3 月 26 日(日)13：00～15：00

4. 場 所：聖路加国際大学 アリス・C・セントジョン メモリアルホール

5. 分科会の開催：なし

6. 開催趣旨：

日本学術会議看護学分科会は、軍事と学術との接近の危険性等について慎重に論議することを含む意見表明を「安全保障と学術に関する検討委員会」に対して行い、当該委員会の審議の経過を見守ってきた。また、この問題を日本看護系学会協議会（日本学術会議協力学術研究団体 39 団体を含む）と共有し議論してきた。

このたび、看護学の多くの研究者を会員として擁している看護系学会が今後この課題にどう取り組むか、看護系学会協議会主催で下記のように討論会を持つこととしたい。

7. 次 第：

- | | |
|-------------|---|
| 趣旨説明 | 高田早苗 日本看護系学会協議会副会長 |
| 13:00～13:30 | 日本学術会議・安全保障と学術に関する検討委員会設立の経緯と看護学分科会の対応について
<u>小松 浩子（日本学術会議連携会員、慶應義塾大学看護医療学部教授）</u> |
| 13:30～14:00 | 日本学術会議・安全保障と学術に関する検討委員会の審議経過と中間報告および学術フォーラム報告 審議の現状
<u>太田 喜久子（日本学術会議第二部会員、慶應義塾大学看護医療学部教授）</u> |
| 14:00～15:00 | 討論＊ 司会 高田早苗 日本看護系学会協議会副会長
<u>片田 範子（日本学術会議第二部会員、兵庫県立大学看護学部教授）</u>
「看護学の学術として今後どのような対応が望まれるか」 |

8. 関係各部の承認有無：第二部承認